

平成30年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成31年3月16日（土）

午前9時00分～午後4時40分

場 所：市役所市民防災館4階レストラン Pomme

出席者：審査委員 土井委員長、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、三橋委員、熊木委員、一條委員（事業番号18まで）、木田委員、川村委員
市民協働政策課 堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主査、村上主事、菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
(7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答)
2. 審査 …20分程度
(事業内容・金額について審議後、採点表に記入)
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

（公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている

実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●15：乳井区域内放棄地の環境整備と美化活動／乳井町おこし協会の

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業初期に整備した箇所で、補修が必要なところはないか。

A：雨で土砂が流れてきたようなところは、団体でできる範囲でその都度整備している。

Q：昨年作成したパンフレットはどこに設置したのか。

A：400部作成したが、夏のフェスティバルを開催したときに参加した方々に配ったため、部数が足りず弘前駅などには置くことができなかった。団体のフェイスブックにはパンフレットを掲載している。

【主な意見】

- ・長年整備事業を頑張っていた中、少しずつソフト事業にシフトしているところなので、継続して頑張っていたきたい。
- ・地域の住民に「押し付ける」のではなく、住民の力を「引き上げて」いき、自分たちの新たな方向性を見つけだしていく活動なので、応援したい。
- ・地域外から訪れる人が増えると、ゴミの問題などが出てくると思うが、あまり自然に手を入れすぎないように見極めつつ、対策を考えながら活動していただきたい。
- ・パンフレットは持ち運びやすいサイズで内容も素晴らしいが、今度改訂版を作成する機会があれば、アクセス方法を追加したり、より見やすい地図を使うなどの工夫をすれば、より良いものになると思う。

【採択結果】

合計点 83.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		83.8

● 28：清水地区産業まつり／清水地区産業まつり実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：催しの中に、お遊戯などで子どもたちが出演する機会はあるようだが、高齢者が参加するような場があれば教えていただきたい。

A：地域の中で生産されているものや取り組みを連携させる機会と考えているので、大人の方にはそのようなブースやコーナーを見ていただいて、地域のことを知っていただきたい。

Q：雨が降った時や、暑さへの対策を教えていただきたい。

A：参加団体には、テントを持ってくるようお願いするほか、休憩スペース用に、地元の団体や学校などからテントを借り、十分な数を確保して雨が降っても開催するが、子ども達が風邪を引いてはいけないので、時間を短縮することも考えられる。また、雨が降るとほたるの観賞はできないため、ほたる池の場所やほたるの見頃・生態について、産業まつり会場で案内する。地元の消防団に参加してもらうので、暑さへの対応なども検討していきたい。

Q：産業まつりからほたる観賞会まで長時間にわたって開催するが、午前アップルパイの無料配布や子どもたちのお遊戯などにぎやかなイメージだが、午後は散策・ほたるの観賞会以外になにか催しはあるのか。

A：アップルパイの配布などは、真夏なので衛生面でも午前のみになってしまうが、夕方

までずっと各参加団体によるブースは開いている。

【主な意見】

- ・平成29年度に小沢小学校PTAで1%システムを活用して実施し、翌年度に自力で開催していた「ほたるの観賞会」をレベルアップさせるため、産業まつりを加えて申請してきたというのがいい補助金の活用の仕方だと思う。
- ・外の地域からいろいろ呼んでくるのではなく、自分の地域の人たちを巻き込んでおり、このイベントを通して企業や団体、住民がつながりを持つことで、さまざまな地域活動への発展が期待できる。
- ・地域のさまざまな産業に携わっている人がまつりに参加してくれるのであれば、販売だけでなく、ちょっとしたワークショップなどもぜひ考えてもらえるように交渉していただきたい。
- ・自分たちの地域以外からも参加者に集まってほしいということであれば、「行ってみたい」と思ってもらえるようなネーミングを考えていただきたい。
- ・子どもたちにたくさん参加してもらい、自分たちの地域の良さ、面白さを理解してもらうことは、その後の子どもたちの生き方にいい影響を与えらると思う。

【採択結果】

合計点 78.7 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		78.7

●2：青少年健全育成・地域づくり・地域世代間交流事業

「第6回 津軽の伝統文化と昔の遊びに触れてみよう」／時敏地区青少年育成委員会
【質疑応答（抜粋）】

Q：より大きな輪へと広げていくために、団体のスタッフが、時敏地区以外のなかよし会や児童センターなどに出前をすることは可能か。

A：我々はもちろん、弘前大学の児童文化研究サークルという歴史あるサークルもあるので、連絡をいただければ内容に応じてお手伝いできる人を派遣することができる。

Q：昨年に比べて講師謝礼を下げているが、今後もずっと事業を続けていくために抑えられる費用は抑えていくという考えから、このような経費になっているのか。

A：華道・茶道・お琴の先生方の謝礼は一昨年から徐々に下げている、了解も得ている。今後今の世代が引退して、次世代のメンバーがこの事業を主催するときに、無理なくできるように、できるだけ準備をしておきたい。

Q：なかよし会や児童館、コミュニティスクールと団体がつながり合っていけるようになると、他地域のモデル的な活動になると思うが、団体としての考えを教えてください。

A：市内では、三大地区が地区内の組織を巻き込んでいる良いモデルだが、我々は少し路線を変えて取り組んでおり、縦割りは縦割りとして認めながら、どのように連携するかを考えている。この事業は地区内のどことどの組織に連携してもらえるか、事業を主体とした連携をするということ考えている。

【主な意見】

- ・事業を見学しにくる他地域の団体もあるということなので、市内全域にこのような活動が広がっていく可能性を感じる。ぜひノウハウを他地域に広げていけるような動きになればいいと思う。
- ・子どもたちが昔の遊びに飛びついて楽しそうに遊ぶ光景を見てきた。多くの人や団体を巻き込んで次世代につないでいくということを今後も継続していただきたい。
- ・補助金を使っていて、今後自立して継続していくことを考えると難しいかもしれないが、講師を無償ボランティアにしてしまうと後継者が育ちづらい、講師の方たちが疲弊してしまうという可能性もあるので、ある程度の予算はみたほうがいいのかと思う。

【採択結果】

合計点 81.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		81.3

●3：文化振興事業 「第3回 大森勝山遺跡と世界遺産登録を学ぼう会」／弘前縄文の会
【質疑応答(抜粋)】

Q：ボランティアの育成状況や、習得している内容を教えていただきたい。

A：子どもたちに縄文人の生活は様式的に我々の生活と変わらないということを知ってもらうために、会員のうち約60人が縄文土器の製作方法を、約30人が勾玉の製作方法を子どもたちに教えられるようになった。今後も、大森勝山について話ができて、土器・勾玉の製作体験もできる人材を増やせるよう努めていく。

Q：じょうもん祭りの開催日が8月4日で、ねふたまつり期間中だが、実施日を変更してほしいという要望は過去になかったか。

A：じょうもん祭りの主催は実行委員会で、地元の町会もメンバーとなっている。団体の中にもねふたに携わるメンバーも多数いるが、この時期が一番活動しやすいという地元の町会の意見を尊重して8月第1週を開催日としている。

【主な意見】

- ・ボランティア育成が進んでも、その方々が活躍する舞台が整わないと意味がないので、行政側にも展示の設備の整備などを進めてもらえるようにPRをしていただきたい。

【採択結果】

合計点 75.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合 計		75.2

● 40 : ～和徳の歴史の探求と伝統ある津軽の歴史の魅力発信事業～

題「けの汁発祥の地 和徳城」和徳城主 小山内讃岐の守没後448年祭

／和徳歴史探偵団

【質疑応答 (抜粋)】

Q : スケジュールの最後にある「歴史講座」について、詳しく教えていただきたい。

A : 小学生を含む和徳地区の住民を対象に、弘前の歴史をからめた和徳の歴史についての講座を行いたい。日にちは、コンテストや没後448年祭が終わってから、団員で相談しながら決めていきたい。

Q : 地域の歴史の魅力発見ということが目的になっていると思うが、予算をみるとコンテストへのウェイトがかなり高くなっている。事業の中身のバランスについて、考えを教えてください。

A : コンテストでは賞の削減案なども出ているが、出場者の意欲が高いことを感じており、なかなか減らせないでいる。講座にかかる経費は印刷費や会場費である。また、謝礼を計上していないが、必要となる場合は自分たちの活動費から賄いたい。

【主な意見】

- ・年々けの汁コンテストへのウェイトが大きくなっているため、団体の活動の原点を再確認するためにも、短期的な目標を再設定してはどうか。歴史講座をその1つのきっかけにしていきたい。
- ・コンテストと和徳の歴史とが切り離されている部分があるように感じるため、団体のメンバーで話し合いながら次の展開を考えていきたい。
- ・地域や地域の歴史を知るだけでなく、けの汁の歴史を知ることや、県内各地のけの汁の違いを知ることを通して、なぜ和徳ではこの「けの汁なのか」という話を詰めていくと、

新たなマッチングが生まれ、より深く生かされると思う。

【採択結果】

合計点 66.7 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.3
合計		66.7

● 19 : 弘前さくらコンサート Vol. 5 / Rainbow Muse Hirosaki

【質疑応答（抜粋）】

Q：出演するピアニストは過去にも出演経験があるが、当時より謝礼が上がった理由を教えてください。

A：当ピアニストの知名度が上がったことと、子ども達との共演機会を多く設けたことから謝礼が上がっている。

【主な意見】

- ・障がいのあるお子さんも出演すると聞いており、市民会館を使って音楽の交流ができる場として活動がどんどん広がっているように感じるので、ますます大きく発展してほしい。
- ・チラシは毎年テーマに合わせて少しずつ変えてはいるが土台は一緒にするなど、お金がかからないように工夫しながら、一流の音楽奏者をゲストに呼ぼうと努力しているのが、とても嬉しい。

【採択結果】

合計点 76.3 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合計		76.3

● 17：津軽笛を通じた地域交流事業（第4回 全日本横笛コンクール）

／津軽笛地域づくり実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今年からエントリーした人が全員来弘して予選・本選で実際に演奏する流れとなったが、予選前日の小学校訪問には、どのような仕組みで派遣するのか。

A：前年度の上位入賞者などを中心に依頼をかけるなど、ある程度の水準を確保できるように工夫したい。

Q：審査員の1人への謝礼が、昨年よりも2万円高くなっている理由を教えてください。

A：昨年は本選のみの審査だったが、今年は予選の審査もしていただくため。

Q：県内あるいは弘前周辺からの参加者を増やす工夫などがあれば教えてください。

A：お囃子を吹いている人は、笛で普通の曲を演奏できないという認識が強い場合が多かった。会の活動を通して、普通の曲も演奏できると発信し続けてきたこともあって、若者の中には普通の曲に挑戦する人が増えてきた。今年も何人かエントリーしているので、今後も少しずつでも増えていけばいいと思う。

【主な意見】

- ・継続しているといろんなつながりができてくると思うので、今後もレベルアップしながら継続して行っていただきたい。
- ・十分協賛を得られるような内容なので、知名度が上がっていることや、経済効果があることを宣伝に使いながら、次回以降、少しでも協賛を得ることに力を傾けていただきたい。

【採択結果】

合計点 67.5 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合計		67.5

● 24：弘前暮らしの保健室／弘前暮らしの保健室

【質疑応答（抜粋）】

Q：チラシ（作製枚数：1，000枚）の配布場所を教えてください。また、遠方から参加している人はいるのか。

A：チラシは包括支援センターや、ケアマネージャーが配置されているような施設のほか、市の公共施設などに置いている。遠方からは都合がいい時にふらっといらっしゃる人がいたり、問い合わせがあったりする。

Q：現在は利用者のニーズから健康づくりサロンの性格が強くなっているのに対し、申請当初に強く打ちだしていた「相談の窓口」についても認知度を上げようとしている印象を受ける。団体として、事業の目的についてどうお考えか教えてください。

A：参加者の相談にのって答えを出してあげることができればと思い、立ち上げた事業である。今は回数が少ないのがネックだと考えており、将来的にはいつでも相談できるスペースを作ることが必要だと思う。拠点としている清水交流センターの周辺には市営住宅などがあり、高齢化が進んでいるので、家の近くにいつでも行けるような場所があるのが理想である。

Q：参加者が固定しないような工夫をしていれば教えてください。

A：何かイベントがある時にチラシをたくさん配布したり、参加者からも声掛けをしてもらっている。安心できる居場所づくりをしていきたい。

【主な意見】

- ・午前中の審査で清水地区産業まつりがあったので、同じ地区で活動している団体として、このまつりにブースを出せるように市役所につないでもらってはどうか。
- ・1%システムを通して知り合った市民の森の会の活動に参加することをスケジュールに入れるなど、他団体との連携方法を探りながら、自分たちの規模に合った運営方法を工夫している。
- ・いい活動をされているが、自分たちのやりたかった方向に進めているかどうか、一度点検してみてもよいと思う。
- ・訪問看護をやってきた方々がメンバーだというのは大きな魅力なので、まずはこの場所のニーズを把握しながら、実績や提供できるプログラムを増やしていくことも大事だと思う。

【採択結果】

合計点 74.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		74.0

●18：主体的に生きる力を育む「キャリア教育・ドリームマップ授業」

／ドリームマップ@ひろさき

【質疑応答（抜粋）】

Q：ワークブック代が昨年の390円から550円へとかなり値上がりしてるが、このワークブックがないと授業ができないのか。

A：ワークブックが改訂されたため、値上がりしたという事情がある。授業はこのワークブックがないとできないことになっている。

Q：キャリア教育の中で夢を描くことを子どもたちに教えるものは、「ドリームマップ」以外にないのか。

A：それぞれのキャリア教育の方法はあると思うが、「ドリームマップ」は全国的に統一したやり方で、講師の質も保ち、同じワークブックを使ってやっているという点で、どの地域でも同じ内容のことが学べる。

Q：今後、自立していくためにはワークブック代を学校側に負担してもらうことが必要だと思うが、そのために必要だと思うことを教えていただきたい。

A：今後も学校の全額負担だけでなく、いろんな人に支援してもらうことも模索していきたい。

Q：今後の団体の目標としては、市内の全学校でこの授業が導入されるということも考えているのか。

A：そのイメージは持っているが、まだ弘前では2年しか行っていないので、授業をすでに実施して下さった先生からも薦めてもらいながら、実施したいという学校を増やしていきたい。

【主な意見】

- ・これまでにドリームマップの授業を受けた学校から継続の要望が出てきているということは、熱心に授業を行っていて、子どもたちからも好評だったのだと思う。
- ・子どもたちの自己肯定感を高めるための活動を熱心にされていることには賛同するが、ワークブックなど、事業に係る経費の内容に疑問が残る。
- ・市で1つのプログラムを応援するという事は、1%システムの主旨になじまないように感じてしまう。全国規模で展開されているもので、授業の仕方に定評があると思うので、公金よりも財団や一般企業の助成を活用してみてもどうか。

【採択結果】

合計点 49.8 点 < 60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	4.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	3.5
合 計		49.8

● 10 : 小学校体育支援事業「運動大好きプロジェクト」

／特定非営利活動法人スポネット弘前

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 学校へのアンケートはどのように行ったのか。

A : 団体でひながたを作成し、各校の教頭先生に書いていただいたものを回収した。

【主な意見】

- ・団体で行っている学校との打ち合わせ、コーチとなる人材の発掘・選定といったマネジメント部分やノウハウの蓄積といった部分も予算化されるべきだと思うので、今後、できれば公的な仕組みとして実施していただきたい事業である。
- ・教員の働き方改革という流れもあり、小学校もいろいろ忙しいと思うので、この事業が成長すればいいと思う。

【採択結果】

合計点 83.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		83.5

● 11 : 障がい者スポーツ環境整備事業～定期的な活動場所の提供～

ユニバーサルスポーツクラブ／特定非営利活動法人スポネット弘前

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 市内には障がいがある方たちの集まりがあるが、将来的にはそういった場所に出前講座として出向くことはできるか。

A : 障がいがある方が身体を動かす機会というのは、とても大きな需要があるので、まずは本事業を定期的に行う実績を積んでいき、その中で外に出ていけるように団体のメンバーを育てていきながら活動したい。

Q : 実施日についての参加者からの要望や、昨年実施していて参加者が増えた理由を教えてください。

A : 参加してもらっている方たちからは、保護者も休みの日に一緒に来て一緒にやってみたいという要望をいただくので、実施日は土曜日ということで続けていきたい。参加者の増加については、保護者同士のコミュニティでの口コミやチラシを配ったことにより、事業の認知度が増えたようである。

Q : 団体のメンバーが指導できるような技術を身に付けて、事業を自分たちで行えるようになると、収益を見込まれない事業を団体のメンバーでカバーしてしまう構図になり、団体が苦しい思いをするようなことはないか。

A : 団体の「定期的な活動」として、ほかの部門のように入会金や年会費を取るような事業にしていくかは団体内でも議論をしているところである。

【主な意見】

- ・ニュースなどで障がい者でも取り組めるスポーツが紹介されたのを見かけたことがあるので、今後ニーズが増えてくると思う。団体の負担にならないように継続して行ってほしい。

【採択結果】

合計点 81.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合 計		81.8

3月16日審査結果（41事業のうち11事業）

採択とする事業 10事業
不採択とする事業 1事業

平成30年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成31年3月17日（日）

午前9時00分～午後2時55分

場 所：市役所市民防災館4階レストラン Pomme

出席者：審査委員 土井委員長、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、下總委員（事業番号13から）、三橋委員、熊木委員、一條委員（事業番号26まで）、木田委員（事業番号29欠席）、川村委員

市民協働政策課 堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主査、村上主事、菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

3月16日に引き続き審査

《審査内容》

●1：市民健康増進事業 「第8回 津軽岩木スカイラインを歩いてみよう会」

／弘前歩こう会

【質疑応答（抜粋）】

Q：現在はJR弘前駅に全員集合しているが、岩木山のふもとを集合場所にして料金を分けるといった方法をとることは可能か。

A：天候等の理由で実施するかどうかの判断を当日朝6時にする。また、スカイラインに登ることが難しくても原則参加費を返さないのので、比較的安全な場所に希望者を案内するなど、できるだけ中止にしないようにと考えている。そのため、基本的には駅集合ということでご理解をいただきたい。

Q：協賛金・広告費を募ることについて、団体のお考えを教えてください。

A：ポスターやチラシを掲示してもらう際に、企業の宣伝が入っていると断られることもある。企業名を出さず協賛金だけもらうのも難しいということで、これまで企業協賛ということはしなかった。

Q：参加者はどのような媒体から事業の情報を得て参加しているのか。広告入りのポスターを掲載できない場所への掲示分などを今後調整することで、企業協賛を獲得することにつながることはできないか。

A：一番多いのがチラシで、別のウォーキング大会でも配らせていただいている。その次にポスターとなっている。県外からは、日本ウォーキング協会の雑誌やインターネットの情報を見て参加している方もいる。今後、役員会議でも協賛については検討を重ねていきたい。

Q：障がい者や小学生といった同伴者が必要な参加者の場合、参加費の面で、家族で参加するのが難しいように感じたが、収入のアップも図る必要性もあると思う。団体の考えを教えてください。

A：家族での参加が減っていることが団体内の課題になっている。この事業は、子どものため、ということもあるので、子どもの料金を例えば半額にして大人の料金を上げるといった工夫なども検討してみたい。

Q：子どもが参加するために今後どうすべきか考えていることがあれば教えてください。

A：9月第1週の日曜日は株式会社岩木スカイラインに迷惑が掛からない範囲で比較的天候に恵まれやすいということから選んでいたが、昨年この日に行事があった小学校が32校のうち28校ということで、実施日を検討しなければいけないかもしれない。また、初めのころは、子どもたちに鳥や虫を紹介しながら歩いたりしていたが、お手伝いいただいていた方が忙しくなり、ここ数年できていないことも影響しているかもしれないので、何か工夫が必要だと感じている。

【主な意見】

- ・イベントとしての完成度が高く、企画段階からよく練られていると思うので、今後自立に向けての取り組みにも期待したい。
- ・子どもの参加については、「親が行きたい」、「親が子どもを連れて行きたい」ということの方が多と思うので、親世代へのアプローチ方法も考えていただきたい。
- ・参加者の分析をしてみて、例えば親子向けのパターンのチラシを作って市連合父母と教師の会や関連団体に配ってみるなど、特に来てほしいターゲットに訴えかける方法をとってみてもいいと思う。

【採択結果】

合計点 75.0点 \geq 60.0点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員12名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合 計		75.0

● 4：防災・地域づくり・地域世代間交流事業

「第3回 西部仲町 自主防災会 防災訓練事業」／西部仲町 自主防災会

【質疑応答（抜粋）】

Q：参加予定の人数が昨年実績では55人に対して、今年は50人とほぼ同数だが、参加人数に対する考えを教えてください。

A：町会内の第三者がいないと避難できない80世帯あまりのうち、高齢者一人暮らしの24世帯を、どの時間帯に災害が起きても安全に保護できるようなスタッフ20人と、避難させなければいけない高齢者が約20人ちょっとということで、合わせて約50人は参加できるような訓練を行う想定である。

Q：昨年度開催時のアンケートで、「災害時に希望すること」という欄があるが、ここではどのような意見が多かったか。また、回答から気付いたことがあれば教えてください。

A：「災害があっても自力では避難できないから助けに来てほしい」という回答が3件あった。この3世帯と乳幼児がいる4世帯が重点的に避難誘導しなければならないと考えている。

Q：炊き出しの訓練などを行っているが、備品台帳の中に炊飯器の記載がないということは、個人のものを使っているのか。

A：口に入るものに関わる道具は、資材庫の中に置かずに、家庭にあるものを持ち寄って使うという考え方である。

Q：有事の際には、家で使っているような電気の使い方をせず優先順位をつけていくことで、電気の節約ができると思うため、発電機で炊飯をする以外の方法も考えられると思うが、団体の考え方を教えてください。

A：避難所に誘導できるまでの間に、食事を提供するために、誰でも操作できて危険が少ないうえ、家から持ち寄ることができるのはやはり電気製品だろうという判断である。また、町会でねふたを出している関係で、ねふた用の発電機を持っている。それらを合わせて使うと、ガソリンさえ手に入れば安全に食事を準備できるという考え方である。

【主な意見】

- ・どうしても蓄えられない人のために「共助」として町会の自主防災会で用意することも大事なことだが、食べる物に関しては、各家庭でできる限り蓄えておくことが大事だと思う。
- ・万が一のために備品を揃えることも大事かもしれないが、災害時には今あるものでどう乗り越えるかを考えながら、別の視点での訓練の仕方も考えていただきたい。
- ・町会によって訓練の方法はそれぞれで、「これ」というモデルがあるわけではないが、団体としての今年度の防災目的がきちんと絞られているので、このまま実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 75.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		75.7

● 9 : HIROSAKI JAZZ STREET 2019 / 弘前駅前遊歩道賑わい祭実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 事業を継続しての効果として、客観的にわかることがあれば教えていただきたい。

A : 駅前遊歩道を通る人の数の実数を図るのは難しいが、店舗を維持できているということ、それなりに客が来ているということだと思う。

【主な意見】

- ・過去にイベントに行ったことがあるが、選曲も若い人から高齢者まで楽しめるようなもので、お店もたくさん出ている。イベント当日以外も、遊歩道を歩く人が増えて、景観も綺麗になったという印象を受けている。
- ・中学生や高校生のバンドを巻き込むというのはすごくいいと思う。
- ・弘前駅から続く遊歩道に花などが植えられて好印象になってきている。今後もたくさんの仕掛けをして新たな「弘前の顔」を作っていただきたい。

【採択結果】

合計点 82.3 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		82.3

●5：士の付く仕事博覧会 資格の取り方・利用の仕方・よろず相談／専門家集団「らの会」

【質疑応答（抜粋）】

Q：学生に参加してもらうための工夫があれば教えていただきたい。

A：「士」のつく仕事の違いや資格の取得方法は一般の大人でもわからない人が多いと思うので、学生が将来目指す道がどのようなものなのかを知っていただくためにも、この場に来ればたくさんの資料や情報が手に入る。周知方法についてはこれから工夫していきたい。

Q：「士の付く仕事博覧会」と「よろず相談」の2本立てということではよろしいか。

A：士業の各専門家が30分おきにそれぞれの仕事を説明するプログラムになっている。せっかくなので、多くの専門家が集まっている日なので、空いている時間に相談に応じてもらえれば市民のためになるかと思う、2本立てにした。

Q：このようなイベントが必要だと感じた理由を具体的に教えていただきたい。

A：普段の活動として「ミニセミナー」や「よろず相談」などを行っており、開催については広報ひろさきや新聞で告知しているが、なかなか会の活動を広く知ってもらうことが難しい。活動を知ってもらい、市民の悩み解決につながるためにできることとして考えたのがこの博覧会である。この博覧会に来てもらえれば、自分の抱えている問題がどんな人に相談すればいいのかわかってもらえると思う。

Q：いろんな「士業」を知ってもらうために、会場に来て資格の取り方を聴きに行く「ハードル」を下げるための工夫を教えていただきたい。

A：例えば「弁護士」のような職業だと近寄りづらい印象を持っている人がいるかもしれない。会場に来れば、あまり会ったことがない職業の人たちがいると思うので、会える場を提供したいという思いもある。いきなり弁護士事務所に行くのは大変だと思うので、この企画によって、気軽に相談できる場があるということを知ってもらえるよう、会場に来ていただくための工夫をしていきたい。

【主な意見】

- ・まず、専門知識を持った方たちが地域貢献のためにこのような会を立ち上げたことはすごいことだと思う。最近は1つの悩みごとがたくさんの問題に被っていることが多く、このような複数の専門家に相談できる場はこれまであまりなかったと思う。
- ・会場を普段の活動場所ではなくヒロロにしたことで、人の流れや来場者の層などを検証していただきたい。
- ・市民が暮らしの中で悩んでいることを解決できるような大切なことを行っていると思うので、サービスを必要と感じている人たちがいるところに自分たちから出向いて行くなど、身近に感じてもらえるようにPRの仕方を工夫していただきたい。
- ・ヒロロを会場にするのであれば、展示をイベントスペースのような広い開かれた場所にしたほうが、多くの人の目に触れて立ち寄ってくれると思う。
- ・例えば、バッジをたくさん並べるのであれば、どのバッジがどの職業のものなのかゲーム感覚で答えられるようにするなど、人を呼びこむ工夫をしていただきたい。また、各職業について説明している話を市民が何となく聞けるように配置も工夫していただきたい。

【採択結果】

合計点 68.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		68.8

● 26 : 「無料接客中国語セミナー・観光中国語ボランティア事業」

／弘前市中国語を楽しむ会

【質疑応答（抜粋）】

Q：接客を中心としたセミナーの参加が少ないとのことだが、それについて対策等あれば教えていただきたい。

A：対象となる方たちから意見を聴いて改善できるところは改善していきたい。

Q：中国人観光客がボランティアを利用したい時の窓口はあるのか。

A：ボランティアのメンバーがゼッケンを着用し、中国人観光客にこちらから話しかけており、質問があれば答える、という対応をしている。

Q：チラシについて、全5回を各回で分けて印刷するのではなく、中国人観光客への対応者向けの「観光編」、接客業者向けの「接客編」、実際に公園や駅で観光客に対応する「実践編」の3種類にしたほうが効果は高いと思うが、団体の考えを教えていただきたい。

A：講師の都合で、まだ全日程と会場を確定できていないため、日程と場所がわかり次第チラシを作っていくというかたちになっている。

【主な意見】

- ・インバウンドをテーマの中心に置いて、前年より中身が骨太になったと思う。
- ・昨年の実績報告書を見ると、セミナーへの参加者は多いが、実践編になると参加者が減

る傾向にある。実際に中国人観光客と話をするのは難しいことかもしれないが、ガイドとして参加する人が増えるように工夫していただきたい。

【採択結果】

合計点 70.7 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		70.7

● 13：無料の学習支援と食事提供の子ども食堂／子ども食堂すこやかプロジェクト

【質疑応答（抜粋）】

Q：これまでやってきて、テコ入れをしたほうがいい点などあれば教えていただきたい。

A：一時期参加者が少ないこともあったが、最近は親御さんも一緒に参加してにぎやかになっている。一方、学習支援の学生を確保するのが難しいこともあるので、大学などに相談して確保したいと思う。

Q：ボランティアの人は大体どのくらい参加するのか。

A：10人～15人程度である。高校生が参加してくれるときはさらに5人程度増える。

Q：ミニカンファレンスでは、どのような内容のことが話し合われるのか。

A：食事のボランティアの人は、厨房に入ってしまうと外のことがわからないことと、ボランティアが全員、すべてを見られるわけではないので気になることを少しでも出してもらおうということで始めた。誰々が食べていなかった、誰々が機嫌の悪い子に話しかけてあげていた…など子どもたちの良いところや気を付けてあげたいことなどを話している。

【主な意見】

- ・福祉の分野では高齢者の居場所づくりや見守りは多く見られるが、子ども達の居場所をたくさんの方が関わって作っていくことも大切だと感じさせる事業なので、弘前でこのような事業があちこちで行われることを期待したい。
- ・今は1%システムを活用しているが、次の財源に目を向けながら運営面でも工夫しているのがよくわかる。
- ・子どもの「食の偏り」や、そこからつながるアレルギー、アトピーの問題もあるので、食事をバランスよく食べられる場所の必要性を感じる。また、このような場所があることで子どもたちがコミュニケーションを取ったり活動できる場が増えることはいいことだと思う。

【採択結果】

合計点 83.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.6
合計		83.2

● 33 : 太宰治まなびの家 津軽カタリスト定期公演 事業/津軽カタリスト

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 団体のメンバーで朗読をされる方はどのくらい増えているのか。

A : 生涯学習フェアの体験学習に参加した方や、ツイッターを通して高校生や大学生などが参加してくれたりしていて、この秋から冬にかけて8人ほど増えた。

Q : 団体に公演できる作品はどのくらいあるのか。

A : レパートリーは47あり、そのうち太宰治の作品が40近くある。

【主な意見】

- ・昨年度からの改善点で「チラシの増刷」が挙げられているので、これまで会場に足を運んでこなかった層の目に付くような場所にもチラシを設置していただきたい。
- ・弘前をPRするポイント（弘前は太宰治研究のまち）を、自分たちの公演を通して広く伝えていくという部分が、今までよりもステップアップしているように感じた。
- ・公演のときにカンパを集めようという新しい段階にも入っているのはいいことだと思う。
- ・太宰作品の朗読をしているところは他にもあると思うが、津軽弁のセリフを津軽弁を使って演じることができるのはカタリストの強みだと思う。地元の若い人もぜひ育成して行っていただきたい。

【採択結果】

合計点 80.2 点 \geq 60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合 計		80.2

● 20 : 国吉獅子踊活動拡大事業／国吉獅子踊保存会

【質疑応答（抜粋）】

Q：後継者のめどは立っているか。

A：12月に獅子納めで町内を回っていた時に、獅子踊りに興味を持ってくれた若いお母さん世代の方が1日中写真を撮りながら一緒に回ってくれたことがきっかけで、同世代の仲間が増えている。小学校の体育館で披露したことで、小学生も興味を持ってきていて、4～5人参加してくれそうな子がいる。

Q：獅子頭を保管する棚の構造について教えていただきたい。

A：集会所の押入れを改造することになるが、普段は押入れのふすまを開けないとみられないようになっており、紫外線なども入り込まないようにする。

【主な意見】

- ・子どもたちにとって、普段見られない獅子はきつとかっこいい存在なのだと思うし、それらを身近に見られることは大事だと思う。後継者問題はクリアできているということなので、全面的に応援したい。
- ・獅子舞の文化そのものも大切だが、このように大人が頑張って地域の文化を復活させたことは、多世代のつながりを保つことや強めることにも波及していくことに期待したい。
- ・国吉の獅子踊は市の指定無形民俗文化財でもあるので、継続していただきたい。

【採択結果】

合計点 78.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		78.2

● 25：さくらまつり駐車場空き情報リアルタイム発信事業／弘前大学丹波研究室

【質疑応答（抜粋）】

Q：研究の財源を求めたものなのか、自分たちの勉強してきた成果を地域に還元する事業の財源を求めたものなのか、事業の位置づけを教えてください。

A：後者である。自分たちが培ってきた経験や、技術を地域に還元したいが、そのためには予算が足りないということで申し込ませていただいた。

Q：駐車場が満車とわかった時点で、その駐車場を回避できるというだけでもいい事業だと思うが、駐車場を上手く活用されたと評価する方法について教えてください。

A：去年は、市役所の駐車場の駐車券の記録などを見せてもらい、団体に記録しているアクセスの履歴と関連性を見つけるということを行った。

【主な意見】

- ・満車だとか、混雑していて1台も入れないという情報を発信するだけでも価値があると思うので、頑張ってください。
- ・県外から車で来る人に、インターネットだけでなく下り線のパーキングエリアなどにチラシを置くなどPRに工夫ができれば、大鰐線沿線の駐車場の利用も増えると思う。
- ・これまで行われてこなかったことだと思うので、継続してたくさんのデータを集めて、さくらまつり以外のときにも波及していけるようなればいいと思う。

【採択結果】

合計点 80.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		80.2

3月17日審査結果（41事業のうち9事業）

採択とする事業

9事業

平成30年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成31年3月18日（月）
午前9時00分～午後4時50分
場 所：弘前消防本部3階 大会議室

出席者：審査委員 土井委員長、鴻野委員、藤田委員（事業番号41から）、山形委員（事業番号32まで）、齋藤（紀）委員、下總委員、三橋委員、熊木委員、一條委員（事業番号14まで）、木田委員（事業番号32まで）、川村委員（事業番号41から）
市民協働政策課 中村係長、齋藤主査、阿保主査、村上主事、菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 3月16・17日に引き続き審査

《審査内容》

●29：harappa こどもびじゅつ部/NPO法人 harappa

【質疑応答（抜粋）】

Q：参加している子どもたちの学年や男女別などを教えていただきたい。

A：低学年（1・2年生）が半分くらいを占めている。高学年になると習い事をする子どもが増えるので、忙しくなる前にこういったアートに触れられる場があることを感じてもらいたいという思いがある。また、男女比は、女の子が3分の2ほどである。

Q：昨年はキャンセル待ちが出たということなので、募集期間を設定して抽選にするなど、応募方法を再検討することは考えられるか。

A：昨年は想像以上の反響があった。前回はチラシが手元に届くまでに学校ごとにタイムラグがあったことから、チラシを見たときには定員がいっぱいだったとの意見があったため、今回は募集の開始日を設定したり、学期後ごとに区切って柔軟に対応していきたい。

Q：関わるスタッフはすべて団体のメンバーか。

A：弘前商工会議所の青年部に手伝ってもらうほか、一般のボランティアを募集したり、このような企画に興味を持っている人に声掛けをする。

Q：教室当日の親御さんの関わり方を教えていただきたい。

A：会場に同席していただくことができるが、一緒に作るということはず、席を分けて見守っていただくことになる。

【主な意見】

- ・小学校から高校までの5教科以外の時間がどんどん少なくなっているため、ぜひ教育委

員会を巻き込んで子どもたちの豊かな表現の場を広く展開していただきたい。

- ・子どもがいるところに出向いて行って、あるいは子どもたちを集めて、自分を表現することができる自由な子どもと、自由に子どもを見る親の目を養っていただきたい。
- ・子どもを対象としていながら市民を幅広く巻き込んでいたり、芸術を通してまちをつくってこうとしていることがわかり、とてもいい企画だと思う。

【採択結果】

合計点 80.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合計		80.4

● 16 : ひろさきの「古い街並み写真」の水彩写生を通じて街並を

アーカイブする重要性を再認識しよう「みんなで描こう ひろさき『古街』百景Ⅱ」
／津軽ひろさきマーチング委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 白黒の写真を元に色のあるイラストを作っていくことの先にある、目指していることを教えていただきたい。

A : 地域に埋もれている白黒写真を引っ張り出していくことである。公民館などで地域の高齢者が持っている写真について直接やり取りをしながら、地域の子どもたちが色付けをしていくという、地域の人同士が顔を合わせる機会を作るという方向に持っていきたい。

Q : 講師の方は、参加者にどのような教え方をするのか。

A : 人に見られることが気にならないクローズドな会場を1か所用意する。人数の制限等を設けず、開場時間内に持ってきた写真や会場に飾ってある写真を選んで、イラストにしたものに色を塗るときに、講師が1人1人にポイントを指導して回る。

Q：白黒写真の世代の中には、福祉施設に入所している人もいるのではないかと思うが、そのような場所に出向くような活動をすることは可能か。

A：前回の事業を行った際に、写真を飾った会場にデイサービスの方たちが非常に多く来場して、写真に写っている当時の話を聞かせてくださった。福祉施設には、事業実施の際には案内を出すことはできると思う。

【主な意見】

- ・まち歩きをしている団体とつながったり、写真に写っている場面に詳しい地域の人を引き込みながら、実際に写真に写っている場所を尋ねるような企画もあれば素晴らしいと思う。
- ・活動の成果物を冊子等にまとめたりして、福祉施設等で写真やイラストを見ながら語り合ってもらったり、塗り絵のようにしてレクリエーションに使ってもらおうといった、事業の結び付け方ができれば、市民にとってとても有益な事業になると思う。
- ・色を塗ることは手先を使うし、思い出話をしたいという高齢者も多いと思うので、昔の街並みを塗り絵にして配布すれば、とても良いコミュニケーションになるという可能性を感じた。

【採択結果】

合計点 76.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		76.9

● 21 : みんなのウォークラリー大会〈弘前の街中にある いろんな「卍」を見つけながら 歩こう〉／特定非営利活動法人 ひろさきレクリエーション協会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 企画書では、歩くコースを駅前周辺としているが、蓬萊広場まで歩いて移動するのか。
 A : 安全面や、当日必要な荷物の運搬等を考慮してコースを再検討したところ、蓬萊広場をスタート地点としたほうが安全であるという結論に達したため、集合場所を変えることとしたい。

Q : 街の人とコミュニケーションを取るようなしかけをコースの中に取り入れられるか。
 A : コースによっては、お店に寄ってもらうようなこともできると思う。そうすることで、お店の宣伝にもなるので、考えてみたい。

【主な意見】

- ・市内には、「卍」が付いているものがたくさんあると思うので、「卍を探す」というテーマは良いと思う。子どもたちが楽しく弘前を知ることは大切なので、継続していただきたい。
- ・店や街を歩く人といった、人と人のふれあいも経験できると思うので、できるだけオープンにこの事業を行っていただきたい。

【採択結果】

合計点 77.8 点 \geq 60.0 点 ⇒ 採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合 計		77.8

● 34：親子の触れ合い「親子じゃれつき遊び」と子どもの生活習慣・体力・社会性をはぐくむ
「運動遊び」／子育て支援サークルママーズクラブ

【質疑応答（抜粋）】

Q：ボディメンテナンス等の開催日時を、平日の午前とした理由を教えてください。

A：ヒロロの子どもの広場を例にとると、土曜日の午前中に父親が子どもを連れてきて、その間母親がリラックスできる時間帯となっているという傾向がみられ、そのような動向を考えると、土日に開催すると参加者が少ないのではないかという意見が出ている。父親から参加希望もあるので、夜間の開催も検討したい。

Q：将来的に、補助金を使わないで運営する見通しについて教えてください。

A：3年後を目標に自立を考えなければいけないと思っている。自立させるための工夫としては、1回あたりの参加料を増やすことも考えられるが、まだ参加者たちもピンと来ていないところがあるので、今後提案していかなければならないと考えている。

Q：新しく設ける予定の父親向けの講座のプログラムはどのようなものか。

A：父親向けのじゃれつき遊びは、女性では難しいような高さがあったり力を必要とするようなダイナミックな動きを取り入れていきたい。

Q：団体の中に、一緒に組んでいけるような人材は育っているのか。

A：長い間スタッフとして協力している人もいるが、本人たちが一緒に遊びを担当できるかとなると、それぞれの家庭の状況もあるので、準備や片づけを手伝うという参加になっていることもある。大学生は卒業すると地元に戻ってしまうこともあるが、「遊び」を軸によく手伝ってくれている。

【主な意見】

- ・最近子どもへの虐待が問題になっているが、この事業では「虐待をやめましょう」と訴えるのではなく、「子どもと一緒に遊びましょう」というゆるい雰囲気、保護者の在り方や子育てを考える時間を持てるので、もっと回数を増やして開催していただきたい。
- ・参加者から参加費を得るだけでなく、団体のメンバーが学んだことを、県内の同じようなサークルで指導して収入を得られるようになると、自立の方向性が見えてくるのではないかと感じた。
- ・「父親が対象」と限定してしまうと、逆に参加しづらく感じる父親もいると思うので、「夜間開設」とだけ銘打つと、これまで参加したがっていた父親だけでなく新規の母親も参加しやすくなるのではないか。
- ・1つの拠点にとどまらず、曜日によっていくつかの会場を渡り歩くことを事業化することも、現在の事業を実施することと並行して検討していただきたい。
- ・これまで保育園を会場に活動してきている実績もあるので、保育士に親子のじゃれつきの大切さや、遊び方を覚えてもらうということも、自立の1つの方法だと思う。

【採択結果】

合計点 80.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.7
合 計		80.0

● 3 2 : 弘前市民の森で元気になるろう／弘前市民の森の会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今年から市民の森での活動回数が増え、会に負担が大きくなる心配はないか。

A : リピーターが活動に慣れてきてスタッフのようになっており、サポートも上手なので問題ないと思う。

Q : 今後、参加者からのオファーによって受け入れる世代を広げていく予定か、団体の考えを教えてください。

A : 状況を見て判断していきたい。プレハブが15人から20人ほどしか入らないので、その中で活動できる範囲で、工夫しながら受け入れていきたい。

【主な意見】

- ・ベテランの方たちが、事業をさらに発展させよう、手を広げようというその意気込みがあるからこそこの事業は継続してきたのだと思う。
- ・市民の森は、弘前市の財産として市がきちんと整備しているので、この場所を利用する市民が増えることはいいことだと思う。

【採択結果】

合計点 76.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合 計		76.0

● 41 : クオリティー・オブ・ライフ フェア/Liaison

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 美容・健康・介護をテーマとしているが、当日会場に来る方は、どのような人を想定しているか。

A : 介護をしている人・されている人の両者が来てくださることを想定している。体が不自由な人は、会場まで移動できるとは限らないので、介護する人が会場に来ていろんなことを覚えていって、家に帰って実践してもらいたい。

Q : 出店するブースの選定方法を教えていただきたい。

A : イベントの目的を伝え、ピンポイントで絞ってお願いをしているところである。講演をお願いした講師の方にも、かなり協力をさせていただいて、助けていただいている。

Q : 初めてのイベントで、広くいろんな方に来ていただきたいという意思を感じるが、当日ヒロロに来た方へも含めて、周知方法について教えていただきたい。

A : SNSを使って拡散したり、これまでの活動でつながっている方にも周知協力をお願いする。また、新聞にも広報していただけるようお願いしたり、公共施設等にチラシを置いていきたい。

【主な意見】

- ・講演とブースを並行して行うのであれば、体験時に説明が聴きづらくなる可能性もあるので、マイクの音を落としたり、スピーカーの位置を気を付けるなど、工夫をしていただきたい。
- ・できるだけ早く介護をしている方に情報を届けて、来場していただけるように、来てほしい人に届くように周知方法を工夫していただきたい。また、いろいろな人がターゲッ

トとなると、周知が難しいので、そちらもいろいろ試行錯誤してやっていただければと思う。

- ・例えば、介護を受けている人が食べるとろみのついた飲み物は、とろみをつけていない状態と味が違うことから、飲み比べをしてみることで「共感する」という体験が簡単にできる。専門で学んでいる弘前医療福祉大学の学生等を巻き込んでみてはどうか。
- ・イベントのタイトルからイベントで何をやるかピンとこない市民も多いと思うので、工夫していただきたい。
- ・まずは実施してみて、ノウハウを蓄積していただきたい。また、参加したメンバーの連絡先を控えるなどして、情報を流せる仕組みや定期的集まる場を作るといったことにつなげていただきたい。

【採択結果】

合計点 75.6 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合 計		75.6

● 39 : きもので「弘前」散策 in さくら&もみじまつり!! / きもの街遊び隊

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 有志から無償で着物をレンタルするほかに、着物のレンタル料で約 20 万円計上されている理由を教えてください。

A : 多くの人に対応したいため、無償でレンタルする分だと足りない。有志から借りることができる数を 20 と見込んでいるので、ほかに 20 着ほどレンタルし、計 40 着を貸し出せるようにしたい。

Q : 市内で同じようなイベントが行われているが、この事業を実施しようと思った理由を教えてください。

A：似たようなイベントが行われていることは知っているが、そのイベントは人数が限定的で、着物を借りられなかった人もいたと聞いていたため、今回のイベントを企画した。

Q：午前9時から11時40分の2時間40分の中で、大勢の人数が着物に着替えて移動して体験を行うのは難しいように感じるが、団体の考えを教えてください。

A：着付けをできる方を7人確保できた。着物を着るのに15分、脱ぐのに20分程度と考えている。着付けのために大きい会場を予約しているので、十分対応できると考えている。

【主な意見】

- ・草履のレンタルやクリーニングを依頼するのが構成員の会社で、ほかに価格を比較できないのであれば、その分は補助対象外経費として判断するしかない。
※対象外経費として採点
- ・このような事業を実施する際には、地元の企業を利用し、地元にお金を落とすことも意識していただきたい。
- ・着物がタンスの肥やしになってしまっている方から借りるというコンセプトは面白いと思うので、あまり欲張りすぎない範囲でやってみてはどうか。
- ・提案している「体験」は短い時間で終わるようなものではないことや、草履でまちなかを歩くことを考えると、スケジュールの立て方にもっと工夫が必要だと感じた。

【採択結果】

合計点 32.9 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	4.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	4.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	3.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	3.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	3.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	2.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	3.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	3.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	2.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	1.8
合計		32.9

● 12：おこまりごと（無料）相談室／津軽保健生活協同組合

【質疑応答（抜粋）】

Q：台車が必要な理由を教えてください。

A：チラシなど、事業を実施する際に運ぶ荷物が多いことと、今後ヒロロの多世代交流室以外の会場で実施することを想定しているため、物を持ち運ぶ回数が増えることが見込まれるため。

Q：津軽保健生活協同組合という大きな組織の事業なのか、その中の有志がキャリアやノウハウを生かして行っている事業なのか教えてください。

A：「地域貢献」という部分もあり、専門職が地域に出て話を聞けるというのがコンセプトである。長期的には相談を聞ける専門職として、地域内の医療機関に協力していただけるように発展させることができればと思っている。

Q：昨年度の参加者について、相談室が行われていることをどのように知った人が多いのか教えてください。

A：ヒロロの3階のエスカレーター付近で許可を得てチラシを配布した流れで相談を受けた方が大半だった。そのほかに、広報を見た方や、町会に配ったチラシを見てきたという方もいた。

【主な意見】

- ・有志でグループを作って申請してきたほうが、審査する側としてスッキリするし、団体としても活動しやすいのではないかと。
- ・地域に医療職がいることで、地域の方はほっとすると思う。また、地域の方の疑問に医療職の人が答えることは、地域住民が自分の健康に対する意識を高めることにつながるという意味でも、このような相談室が地域にたくさんあればいいと思う。
- ・まちのどこかに行くと、気軽に相談できる場所があることはとても嬉しいことである。

【採択結果】

合計点 84.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合 計		84.9

● 14 : ピースセレモニー in 弘前 2019 / Peace of mind

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 地域の活性化が目的とのことだが、この活動はひとりひとりの心の問題のように感じる。「心の問題」と地域の活性化はどのように結びつくのか。

A : ひとりひとり誰でもさまざまな悩みを抱えているが、意識や見方、考え方が変わると悩みが解決することもある。家族間、職場の仲間など、人が集まる場所でそのような意識改革が起こることで、結果的に地域がよくなると考えている。

Q : 5月1日に蓬萊広場で行うことにした経緯を教えてください。

A : 日にちは、ちょうど元号が変わり新しい時代への門出というつもりで選んだ。この時期の市内の公園や広場はさくらまつりやそのほかのイベントが行われているので、結果的にこの日に空いている蓬萊広場に決まった。旗を振る楽しい雰囲気から、誰でも自由に会場に入ってきていただきたい。

Q : このイベントから、どのように地域愛を育むことができるのか。

A : このイベントを体験することで、自分の身近なことを見つめ直すことができ、「気づき」があると思う。平和を意識する活動を、長崎や広島だけが大きく行うだけでは広がっていかない。弘前でも平和を願うことで人に対しても優しくなれるという変化を感じていただきたい。

【主な意見】

- ・市民全体がこのイベントに共感できるかという点、やはりひとりひとりの心の問題になってくる。
- ・平和を願うという目的は非常に理解するが、事業の効果として、具体的な社会課題の解

決ではなく、平和の実現という心の変化を測定することは難しい。

- ・平和の実現の仕方として、祈ることも選択肢の1つかもかもしれないが、実際にこの手法で地域活性化につながるかが他者から判断しづらい。実際に団体でできる範囲でやってみて、市民が弘前市でやるべきだと思うようなものであれば評価が変わると思う。

【採択結果】

合計点 24.9 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	3.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	2.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	2.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	2.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	2.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	3.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	2.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	2.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	2.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	1.1
合計		24.9

● 6：地産地消リサイクル推進事業／特定非営利活動法人もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年の実績に書かれた課題・反省点を踏まえて今回新たにやられる内容について教えていただきたい。

A：身近で取り組みやすい生ごみ堆肥化を実践する方を増やしたいということで、ダンボールコンポストを改良したものを作り、モニターを募集しているが、なかなかレポートが集まらない。今回は確実にレポートを提出してもらえるように、提出者全員に商品券を付ける予定である。参加賞は1%システムでは対象外だが、協賛企業が増えたので実施できるようになった。

Q：モニターからの報告を、「体験者の声」として、ゴミ減量の啓発をするための配布物等に使う予定はあるか。

A：毎年行われている「市民ボランティア交流まつり」で、今年は展示と体験のブースに参加したところ、熱心に話を聞いてもらうことができたので、今回もまつりの中で啓発活動を行う。また、フェイスブックでの発信も始めたいと思う。

Q：2025年で活動を終了することを想定しているとのことだが、今後の活動についてどのように考えているのか教えていただきたい。

A：そのころには団体の中心メンバーが80歳以上になっていくことや、新たなメンバーが入って来づらいという現状があるので、期限を決めて若いメンバーや環境をテーマにして活動しているほかのNPO法人に引き継ぎ、バトンタッチしていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・市の政策として生ごみの「水切り」が推奨されているなど、生ごみの減量化の動きもあるので、団体で推進しているコンポストを利用する方法もあることを、市からも発信してもらえるようになればいいと思う。
- ・キャンペーンをしているところに足をとめて話を聞いてくれる市民が増えたというのが嬉しい。
- ・食と産業まつりにブースを出す予定とのことなので、そこで新たな層に働きかけていただき、活動を広げていただきたい。

【採択結果】

合計点 77.3 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 8 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合 計		77.3

● 7：リサイクルステーションモデル事業／特定非営利活動法人もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：平成30年度に実施した田町町会では、1%システムを活用して実施されたことは認識されているのか。

A：チラシや電動コンポストがあるところに1%システムの採択事業であることは書いていたので、認識していただいていたと思う。

Q：電動コンポストを使用するにあたって、ルールは守られていたか。

A：ナイロン袋やたばこの吸い殻が混じていたことがあったが、マナーとしては良い方だと感じている。

【主な意見】

- ・田町町会の皆さんが町会で設置するということまで団体がフォローアップすると、1つの完成事例として素晴らしいと思う。
- ・モデル地区となった田町で必要性や利便性を感じていただいているようであれば、誰かが先頭になって1%システムに申請して継続していただければいいと思う。

【採択結果】

合計点 80.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 8 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		80.0

3月18日審査結果（41事業のうち11事業）

採択とする事業	9事業
不採択とする事業	2事業

平成30年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（4日目）

日 時：平成31年3月19日（火）
午前9時00分～午後4時35分
場 所：市役所前川新館3階大会議室

出席者：審査委員 土井委員長、鴻野委員、齋藤（秀）委員、藤田委員、柴田委員、
山形委員、齋藤（紀）委員、下總委員、垣内委員、三橋委員、
熊木委員、一條委員（事業番号23まで）、木田委員、川村委員（事業
番号27から）

市民協働政策課 佐藤課長、中村係長、齋藤主査、阿保主査、村上主事、菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 3月16～18日に引き続き審査

《審査内容》

●30：大仏公園あじさいまつり／石川町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：川柳やお絵描きなどで賞品を出しているが、この賞品を協賛してもらうなど、まつりの中に協賛者がいることでより地域のまつりとしてみんなで作っている感じが高まると思うが、団体の感触を教えてください。

A：あじさいまつりが始まった当初は、地元の菓子店があじさいまつりに合わせてあじさい餅を作っていたりしたが、協賛まではお願いしたことがなかった。金額的なこともあるし、賞品にかかる経費をどうにかしたいという思いがあるので、今後工夫していきたい。

Q：絵の賞は誰が決めているのか。

A：絵については地元のプロの方がいるので、全作品に目を通してもらい、全作品に賞をつけている。すべての賞に賞品があるわけではないが、描いてもらった人には自分がどの賞かがわかるように一覧を送っている。

Q：将来、1%システムを使わずにどのようにまつりを運営していこうと考えているか教えてください。

A：大仏公園を知っていただきたいという思いから、始めた事業である。あじさいが咲いているから来てください、というだけではなかなか人が来てくれないということで特別イベントを実施したり、ラジオやテレビなどでも報道していただいているが、春は桜、夏はあじさい…ということが定着すれば大々的な周知やイベントをしなくても、公園に足を運んでくれる方が増えると思っている。

Q：イベントのときに出店してくれるお店を募集したことはあるか。

A：特別イベントは1日だけということもあり、地元の団体などをお願いをして店を出してもらっているだけで、募集をしたことはない。

【主な意見】

- ・事業自体は素晴らしく、安定してきていると思うので、今後どのような方向に進んでいけばいいのかを検討する材料として、来訪者が何を見てまつりを知ったか、どんな企画があれば足を運んでくれるかなどを教えてもらえるような簡単なアンケートをとってみてはどうか。
- ・この日に集まる想定人数はお知らせして、よかったら店を出してみませんか？というスタンスで団体の負担にならないように募集をかけてみるなど、いろいろ実験的に仕掛けてみていただきたい。
- ・地域でおまつりがあると、農協に賞品の提供や出店のお願いをすることが多いと思うので、女性部や青年部を巻き込んでみるなど、農協に相談してみてもどうか。
- ・すぐ近くにある温水プールなどを巡るウォーキングコースを作ったり、乳井町会の歴史散策コースと合わせた楽しみ方を提案したり、公園のあじさいを紹介するなど、常に市民の関心を集めるようにSNSなどお金がかからない方法で発信することでも大仏公園を訪れる人が増えることにつながると思う。

【採択結果】

合計点 79.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		79.4

● 31 : 「あのね、知ってる？ここにもフランス」プロジェクト／弘前グローバル・アクション
【質疑応答（抜粋）】

Q : 今年から自立して行うマルシェについて、協賛金をもらえる道筋は立っているのか。

A : 今年からマルシェを補助金を使わずに実施することにしたが、大学から荷物を運搬するトラックをかみどて朝市のかたに出していただくなど、さまざまなかたに協力していただいている。地域のかたがたとのつながりを感じており、協賛金も確定しているわけではないが希望は持てるのかなと考えている。

Q : 手回しオルガンのワークショップは、今年は表面の装飾だけとのことだが今後1つのオルガンを作る第一歩ということなので、手づくりでできる範囲や、どのくらいの手間が掛かるのかを教えてください。

A : 専門家でも手回しオルガンを作ることは簡単ではなく、構造が複雑で教えるとなると時間がかかるとのことだった。制作図の作製や組み立てができる方が1人でもいれば、みんなですしずつ作り上げていき、最終的には弘前市民が作ったオルガンということで、ほかのイベント等にも貸し出したいと思う。

Q : 今後手回しオルガンを何年計画で作っていく予定か、後輩への引き継ぎ方法も含めて教えてください。

A : 1年ごとに深く事業に関わることができる学生が代わるので、自分たちがこの事業を計画した流れや思い、団体として1台オルガンを持ちたいという考えをしっかり後輩に伝えていきたい。完成したオルガンの保管は大学では難しいので、地域の方たちにも協力してもらおうことになると思う。

【主な意見】

- ・毎年主要メンバーが代わると、アンテナも変わってやりたいことも増えて、事業が広がる可能性があると思う。
- ・学生のメンバーはどうしても入れ替わりが激しく、イベントを立ち上げたメンバーとその後輩とでは熱意に差が出てくることもあるので、後輩たちに熱意を見せて、引き継いでいていただきたい。
- ・楽器を作るプロセスにたくさんの人に関われるのが面白いと思う。

【採択結果】

合計点 79.4点 \geq 60.0点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 13名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.6
合 計		79.4

● 37：第8回こぎんフェス／こぎんフェス実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q：こぎんフェスを実施しての効果をわかる範囲で教えていただきたい。

A：来場者が年々増えており、出店者の売上も毎年伸びている。また、自分の刺したアイテムを身に付けた方や外国人の来場者が増えており、すそ野の広がりを感じている。

Q：こぎん刺しを買いたい人に紹介するためにも、将来的に弘前公園周辺で出店することは考えられるか。

A：弘前公園周辺だと、観光館の中のさくらはうすや武徳殿でこぎんが販売されている。確かに会場が弘前公園により近い方がいいと思うので、適した会場があれば検討したい。

Q：英語版こぎんマップはとても楽しみである。イベント当日は、会場に英語を話せるスタッフが配置されているのか。

A：特に配置していないが、何か聞かれたときには手振り身振りで伝えている。今後検討したい。

【主な意見】

- ・需要があれば、中国・台湾の観光客が多いので、中国語版も作ってはどうか。
- ・会場に外国人観光客に対応できる方を配備することができれば、より世界に向けて発信できる体制が整っていくのではないかと思う。
- ・公共施設の壁やまちの中のさまざまところにこぎん刺しの模様が使われていたり、市内の中学校でこぎん刺しをしているところが出てきていたり、すそ野が広がっているところなので、その助けになるような事業になっていただきたい。

【採択結果】

合計点 79.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		79.4

● 38 : 久渡寺で応挙の幽霊実行委員会／久渡寺で応挙の幽霊実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q : この幽霊画が久渡寺にある理由を知ることはできるのか。

A : ツアーに参加していただければ、伝わっていることを聞くことができると思う。

Q : 落語だけでなく、久渡寺に焦点をあてて、一般の人が参加できるような要素を少し増やしたほうが、事業目的の「シビックプライドの醸成」や「市民への発信」の効果が高まると思うが、団体の考えを教えていただきたい。

A : このイベントを発信するときに、ホームページなどでこの地区の魅力や歴史も合わせて発信していきたいと思っている。イベントに厚みを持たせられるように考えていきたい。

Q : 次年度以降、この事業を企画する際にも落語が軸になったイベントになる予定か。

A : 「応挙の幽霊」という落語の演目と円山応挙の幽霊画のコラボレーションという骨格は崩さずに、いろいろなアドバイスをいただきながら、事業の要素を膨らませていければと思っている。

【主な意見】

- ・世界で2つしか現存していないと言われる円山応挙の幽霊画のうち、1つが久渡寺にあるということを、市民の皆さんにわかっていただく機会は必要であり、発信していくことは大事だと思う。
- ・住職による応挙の幽霊画にまつわる話とプロの噺家による落語、久渡寺周辺の散策とい

った充実したイベントになっているので、しっかり周知していただきたい。

- ・この事業をきっかけに、久渡寺を中心として津軽三十三観音が全国に広がれば、弘前へ人を呼び込めるようになる企画だと思う。

【採択結果】

合計点 76.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合 計		76.6

● 36 : 鬼檜地域「歴史と伝説の里づくり事業」 / 歴史と伝説の里「鬼沢の会」

【質疑応答（抜粋）】

Q : 養成を行っていた語り部は何人になったか教えていただきたい。

A : すぐに語り部として動けるのは4人になった。

Q : 今後、この事業を継続するための資金を得る方法として民泊などに展開をしていく可能性は考えられるか。

A : 団体内で民泊の可能性を考えたこともあるが、現時点では難しいと考えている。今は、地域への来訪者を増やすということをやっていききたい。

【主な意見】

- ・地域の人たちだけでなく、地域外の人たちも巻き込んで地域を愛する人たちの数を増やしていこうという取り組みはとても貴重で、地域発の活動として素晴らしいと思う。
- ・黒石市で、地域を盛り上げることとりんご生産者をサポートすることを目的に、りんご農家が定年した人を中心に受け入れ、りんご農家で働いてもらうトラベラーズワーキング型の農作業体験を行っている。このような取り組みを参考に、今後の展開を探っていただきたい。

- ・鬼沢地区では、若い方や女性を上手く巻き込んで地域を盛り上げていることがよくわかるので、事業を継続していただくことで、さらなる一步を期待したい。
- ・語り部の育成もうまくいっているようなので、途絶えないようにずっと継承していただきたい。

【採択結果】

合計点 81.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		81.8

● 27：いわなのつかみどり体験／特定非営利活動法人 藤代地域ふれあいの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今年の参加予定者数を昨年並みと見込んでいるが、今までに足を運んだことがないような人に来てもらえるような工夫があれば教えていただきたい。

A：年々地域の子どもの数が減っているものの、たくさんの人に参加してもらいたいという思いはあるので、チラシを何度か配り、多くの人に体験があることを知ってもらい、足を運んでもらいたい。

Q：PTAなど参加する子ども達の親世代に運営に携わってもらい、まつりの運営の仕方を次の担い手に体験してもらおうなど、ボランティアの協力者を増やすことで費用を削減できるのではないかと思うが、団体の考えを教えてください。

A：今も生けすづくりのシート張りや受付などの役割でPTAの協力を十分受けているが、参加者の一部ではあるので、ボランティアの方たちへの指導や協力体制について考えていきたい。

Q：いわなの調理の際の安全管理について教えてください。

A：体験当日にいわなを調理する旨を保健所と消防本部に届け出を出している。また、調理の際は子どもには触れせず、調理専門の担当にお願いしている。

【主な意見】

- ・地域のまつりはコミュニティ活性化の1つの手段であり、地域の情報収集ができるきっかけになると思うので、継続していただきたい。
- ・地域の子どもたちのために行っている事業なので、地区内の町会に理解を得て協賛金をもらえるように努力を重ねていただきたい。

【採択結果】

合計点 70.7 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択(申請額どおり)

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.6
合計		70.7

● 8：健康講座(室内ゲーム) / 紺屋町 幸扇会

【質疑応答(抜粋)】

Q：新規の参加者を増やすために何か工夫をしていることがあれば教えていただきたい。

A：町会に住む高齢者のうち3割ほどが老人会に入っているが、60歳を迎えた方には声をかけて、参加を促していきたい。また、隣の袋町町会から、ゲームをするときに声掛けして欲しいという声も上がっているので、袋町や五十石町といった周辺町会と交流を広げていきたい。

Q：参加者の男女比率が大体半々ということだが、男性も参加してくれる秘訣があれば教えていただきたい。

A：ゲームの準備は物を運んだりするので、男性に声掛けをしている。役割があるので、参加者も活動的に行動できているのではないかと思う。

Q：今まで手づくりのゲームを使っていて集まっていた方たちが、道具が代わると雰囲気が変わってしまうのではないかという心配があるが、団体の考えを教えてください。

A：器具を3種類買って更新したものでゲームをするのではなく、工夫をしながらゲームの数を増やして楽しさを増やしていきたい。

【主な意見】

- ・このような地道な活動は大事だと思うので、ぜひ継続していただきたい。
- ・高齢になって家に引きこもりがちになった方でも、気軽に参加できるような雰囲気を作っていたきたい。
- ・加入者が少ないことや固定の参加者しかいないことが課題になっている老人クラブも多い中、レクリエーションを中心に活発に活動しているので、このようなつながりがいざという時に大きな力になっていくと思う。
- ・レクリエーションだけでなく、1%システムを活用し「おこまりごと無料相談室」などさまざまな活動が行われているので、そのような方たちとコラボして活動するのも面白いのではないかと。

【採択結果】

合計点 75.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合 計		75.1

● 22 : HIROSAKI 伝承シアター／ひろさき演人

【質疑応答 (抜粋)】

Q : チラシやポスターのデザイン費に大きな経費がかかっているが、ベースを1つのデザインにして経費を削減することは可能か。

A : 団体のイメージで1つのデザインに固定したい気持ちもあるが、取り上げる題材やジャンルが異なるため、1作品ごとにこだわってチラシ・ポスターを作ることが理想である。その時の芝居がどのようなイメージなのか、観覧者に伝わるようにしていきたいので、デザイン料について印刷会社と交渉をしてみたいと思う。

Q : まだ団体ができたばかりで名前を知ってもらう段階で入場料500円を徴収することは大変だと思うので、経費を抑えて入場料を下げてはどうかと感じたのだが、団体の考えを教えていただきたい。

A : 本当は入場料を1,000円に設定したかったが、知名度のない団体に1,000円払って来てくださる方はなかなかいないだろうということと、無料だと運営上厳しいということで500円に設定した。また、会場も比較的安価なところを探して、経費を抑えている。

Q : この事業で上演する予定の朗読劇は、今までに上演したことがない演目になるのか。

A : 団体として上演したものは昨年上演した「マッド・メロス」1作品だけなので、そのほかは初めて上演することになる。

Q : 上演する時間帯はいつ頃を想定しているのか。

A : 現時点では午前中と考えているが、出演者やスタッフの都合で夜公演になる可能性もある。

【主な意見】

- ・会場をいくつも調べて費用がかからないよう工夫していることはとても評価するので、印刷費についても同じように経費が掛からないように努力をしていただきたい。
- ・お寺や教会などでも演奏会やイベントを開催していることもあるので、演目のテーマによってはそのような場所を会場にすることを検討してはどうか。
- ・SNSを利用したりメディアに取り上げてもらえるように情報を流したりすることで広報活動にかかる経費を抑え、参加費を抑えることで、まずは市民に足を運んでもらいやすくなることから始めてはどうか。
- ・演じる内容は津軽の歴史などに関わることなので、とてもいいと思う。

【採択結果】

合計点 68.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.3
合 計		68.4

● 23：まちなか百縁せみなー／まちなか応援隊

【質疑応答 (抜粋)】

Q：チラシやポスターにかかる経費をもう少し抑えることは考えられるか。

A：ひとつひとつの講座の内容が違い、講座の回数が多いことから、チラシ・ポスターの経費がある程度かかることになる。また、講座を通じて、まちで過ごす楽しさを感じてもらうために、手を抜かずに印刷物を作りたいという思いもある。

Q：実施する予定の講座内容を具体的に教えていただきたい。

A：いつ、何を行うかは現時点で決まっていない。団体のネットワークやメンバーで行えそうなことを洗い出しているところであり、これから日程調整をしていく予定である。

Q：平日の昼間の時間だと参加できる人が限られると思うが、その中に休日の日を何回か入れてみることは可能か。

A：土手町には、いわゆる公民館のような機能が少なく、近隣の高齢者がお茶を飲みながら話せる場所がないことを課題だと感じていたため、屋台村の空いている時間を活用してはどうかという延長でこの事業を考えた。そのため、今回の事業では、基本的にターゲットは平日働きに出ている以外の層になる。

【主な意見】

- ・チラシやポスターにかかる経費がかなり高く感じる。広告が立派だから行ってみようというわけではなく、講座の内容が大事だと思う。
- ・まちなかを賑やかにしたいという目的はとても大事であり、いい内容のセミナーを開催しようという思いは伝わるので、こんなことをやるからこんな人に来てほしいかといった、より効果が伝わるような構成を考えていただきたい。

- ・商店街の関係者が、自分たちの職業に関する知識を使いながら講座を開催することはイメージできるので、具体的な講座内容を示してほしい。

【採択結果】

合計点 52.1 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	4.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.3
合 計		52.1

● 35 : お仕事体験広場キッズハローワーク / お仕事体験広場キッズハローワーク実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 現在は学校を会場にしているが、これから体験できる職業を増やせるスペースはあるのか教えていただきたい。

A : 個人情報や私物の管理の観点から、普通教室を借りることが難しいため、スペースに余裕があるわけではない。特別教室や屋外を使いながら約30の体験ができており、受け入れ可能な参加者数が550人くらいとわかったが、運営側の体制として今はなかなか増やせない状況となっている。

Q : フィードバックの方法を教えていただきたい。

A : 出店者へのアンケートと、参加した子どもたちには「おしごと手帳」の中にある「おしごとカード」に体験した仕事の内容と感想を書いてもらい、体験終了後に提出してもらっている。

【主な意見】

- ・事業が成長していくと、その分経費もかかってしまうので、今後、財源を確保するための体系を作っていくことも見据えていただきたい。
- ・楽しそうで、多様な職業を体験でき、すごくいい事業だと思うので、ぜひ継続していた

だきたい。

【採択結果】

合計点 85.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.6
合 計		85.8

3月19日審査結果（41事業のうち10事業）

採択とする事業 9事業
不採択とする事業 1事業

1次募集事業の審査結果（41事業） 3月16日～19日審査合計

採択とする事業 37事業
不採択とする事業 4事業